

## 2、書き込む

2、3時間くらいかけて歩くと、十分な情報量が集まります。日頃通る道でも視点を変えればこんなことが！という新たな発見があります。それら大切な「気づき」を記していきましょう。

色ペンと付箋で塗り分けをしながら、安全・危険や、集めた情報を白地図に記入します。特に重要なのは、「これは自分じゃ解決できない」「この情報は私には判断つかない」「僕は安全と思ったのに、大人は危険だと言って意見が合わなかった」などのマイナス情報もきちんと記載していくことです。先入観を持たずに情報を判断することは災害対策にとって、とても大切です。



避難場所の学校と公園は、本当に安全なのだろうか



## 3、パソコンで入力する

紙の防災マップから一歩飛び出して、インターネット上のデジタル地図で入力作業を行います。詳細はe防災マップの登録後に提供される詳しい資料をご参照下さい。ココがポイント！にある各種基礎データと、この時点で符合してみるのも一つの手です。

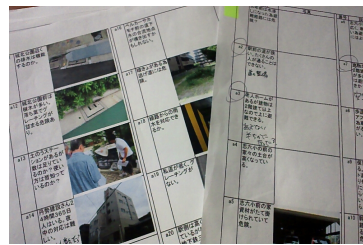
## 4、議論する

入力後(e防災マップを使用してなければ2の書き込み地図で)、地図を見ながら議論を行います。まち歩きで収集した情報をもとに、具体的な被災状況、それに対する実際の行動、解決し難い課題・問題などを整理します。まずは自らの命を助け、そして自主防災(減災)組織がうまく機能する。この「自分が出来ることは何か」を一つ一つ明らかにしていきましょう。



## 5、1～4を繰り返す

以降は集まりを重ねて、歩く・書き込む・入力する・議論する、を繰り返していき、地図を作り込んでいきます。2回目以降は、状況に合わせて臨機応変に順番を変えたり、調査を深めてみてください。また、まち歩きをする際は前回と同じでなく他の班のエリアを歩いてみると、両方の課題・問題が客観的に見えてくるでしょう。



### ☆行政との関わり方

地域で防災マップ作成するとき、まず区役所や行政に相談されることが多いと思います。もちろん親切に協力してくれるはずですが、ここで一つ注意したいのは、地図の作成自体を行政に依頼し作業を強制すると、多くの場合が継続しない(＝失敗する)ということです。いざ災害が発生したときに、その現場にいるのは皆さん自身であり、その地に長い間暮らし続けるのも皆さんです。

この活動は地図を作ることが目的でなく、参加することを通して自助(まずは自分が助かる)の力をつけ、近所の絆を強め(共助)、地域全体が災害に強くなるのが最大の目標です。費用的な面、時間的な部分、技術的な心配からどうしても、地域センターに丸投げしてしまい、完成を焦ってしまうことも多々あります。ですが、ゆっくりでも仲間同士でできる範囲で着実に進むことで、結果的には費用も時間も効率的でずっと役立つ、「活きた」地図に成熟していきます。

## ステップ4 備える:作成した地図を活用する

作成した地図を活用して、以下にある地域防災力を高める行動を実行していきましょう。

1. 地図を印刷し配布する。
2. 活動を共にした仲間の輪を広げ、地域の絆を深める。
3. 更に継続して作成に取り組み、組織強化とリーダー育成を目指す。
4. 被災時の混乱した中でもとっさに頭に浮かぶ、標語をつくる。



### 1、地図を印刷して地域に配布し、防災マップを用いた防災訓練を行う。

自分達で作成した地図を用いて防災訓練を行うことで、目的が明確になり参加者の危機意識が共有され、とても内容の濃い訓練を行うことが可能になります。役所や町会・自治会が行う防災訓練にも、ぜひ使用を申し出てみて下さい。

### 2、活動を共にした仲間の輪を広げ、地域の絆を深める。

これまで取り組んできた内容を報告する発表会を行ったり、e防災マップコンテストに応募したりすることは、古くからそこに暮らす住民と新しく越してきた住民が「災害」という共通の問題を解決するための場を持つことにつながります。地域の絆を深めるきっかけにしてみてください。

### 3、継続して取り組み、自主防災組織の強化と防災リーダー育成を目指す。

自発的な備えを促すためには、作成中に気付いた「間違ったこと、足りてないこと、できないこと」を忘れずに、解決していこうとする気持ちが大切です。ぜひ日記風の活動記録をつけてみてください。振り返って読んだときにあらためて、まち歩きの際に感じた自助と共助への想いが響いてきます。

### 4、被災時の混乱した中でもとっさに頭に浮かぶ、標語をつくる。

最後に、イザ！発災した際に行動の指針となるような標語を作成して掲げてみましょう。どんなに備えをしても、災害にあったときにはなかなか冷静でいられません。そんな状態でも自然と頭に浮かび、冷静になれるような標語があるととても心強いものです。例えばゲリラ豪雨に襲われた際、どこにいるのが一番安全かを表す『逃げる判断！とどまる決断！』というのはどうでしょう。分かりやすく語呂合わせのよい標語になっていれば、とっさに思い浮かぶのではないのでしょうか。

### **☆防災マップを信じるな！！ 宮城県七ヶ浜町の話**

宮城県七ヶ浜町では、私達と同様に「自主防災組織のリーダー」が中心となり、津波被害に対するGIS\*を用いた防災マップを作成していました。

平成23年3月11日に発生した東北大地震によって、この町も大きな津波に襲われました。地震発生後、花剌浜地区の地域住民は指定の場所に避難していましたが、県が想定していた高さを凌ぐ5メートルの津波が到達するとラジオで聞いたリーダーは、自ら判断して住民をさらに高台へ避難させ、高齢者60名の命を救いました。しかし残念ながら周辺地域の方全員が助かった訳ではありませんでした。完璧な防災マップというのはおそらく存在しません。ですが地図を作る過程によって、自ら状況を判断し、率先して行動する力を身につけることはできます。まずは自分の命を守り、大切な家族や友人が一人でも多く助かることに繋げるために、今回の震災の経験を教訓として「自分ができる第一歩」を踏み出して欲しいと思います。

GIS\* 地理情報システム(Geography Information System)の略。

(参考:「おらいの防災マップ」東北学院大学宮城豊彦教授より)



.....

着火しやすく、水に流されやすいバンボウさん。



大好きな板橋区でずっと幸せに暮らしていくために、彼らは決心をしました。

「火にも水にも弱いぼくたちだけど、みんなで力を合わせて強くなろう。防災マップを勉強して、災害に負けないまちをつくっていこう！」

ぼくたちの子が、恋し、結婚し、おじいちゃんおばあちゃんになっても、このまちで素敵に暮らしていけるように。。。

.....



手引きの作成にあたり、独立行政法人防災科学技術研究所の須永様には数多くの無理な要望にもお答え頂き、資料の使用にも御許可を頂きました。この場をお借りしまして、心より篤く感謝申し上げます。

板橋区防災マップ参加プロジェクト 確かめよう！自分ができる第一歩  
地域で作る防災マップの手引き

発行日：平成24年9月

制作・著作：渡辺賢祐、坂本東生

興味を持たれた方は、ぜひこちらまでアクセスして下さい。

<https://www.facebook.com/TokyoJC.Itabashi>

[tokyojc.itabashi@gmail.com](mailto:tokyojc.itabashi@gmail.com)